



栃木県農業の魅力を伝える情報誌「TOWANO」Vol.2
2019年 7月



TOWANO

とちぎ

わくわく

のうぎょう

栃木県では子供たちに夢を与え、
人をひきつける魅力ある農業・農村を実現するため、
とちぎ農業“進化”躍動プランにもとづき施策を展開しています。
「TOWANO」は、農業にたずさわる人々や多彩な農産物、農村の魅力など
栃木県農業の今と“わくわく”をお伝えします。

- P.2 栃木の農業 これまで これから
- P.4 キラリと光る 栃木の人材
- P.6 食と農の可能性を拓く
- P.8 季節を楽しむ! 「とちぎの農村めぐり」

【栃木の農業 これまで これから】

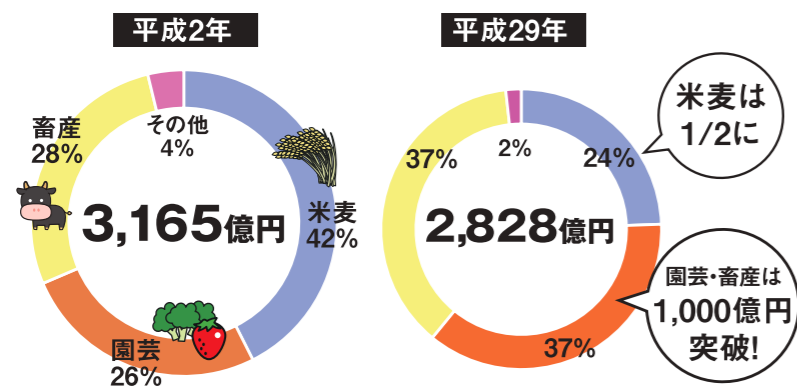


栃木県は肥沃な大地と穏やかな気候、豊富な水資源に恵まれた県です。たくさんの農産物が生産されており、農業産出額は全国でも上位です。「平成」の30年が終わり、「令和」となった今。栃木の農業のこれまでとこれからを見てみましょう。

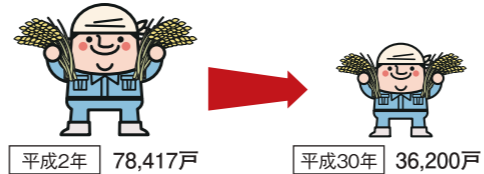
【農業で1億円プレイヤーになる! これからの栃木の農業】

平成の始め、7万8千戸以上あった栃木県内の農家数は現在約3万5千戸弱にまで減少しました。その一方で、農業産出額は3,000億円前後で推移しています。農家一戸あたりの販売額は約2倍になっており、1,000万円を超える農業者も増加しています。また、いちごやトマト、畜産などでは販売額が1億円を超える農業者も誕生しています。

◆農業産出額の推移



◆販売農家数の推移



◆一戸あたりの販売額の推移



【目指せ4億円! 世界へはばたく栃木の農産物】

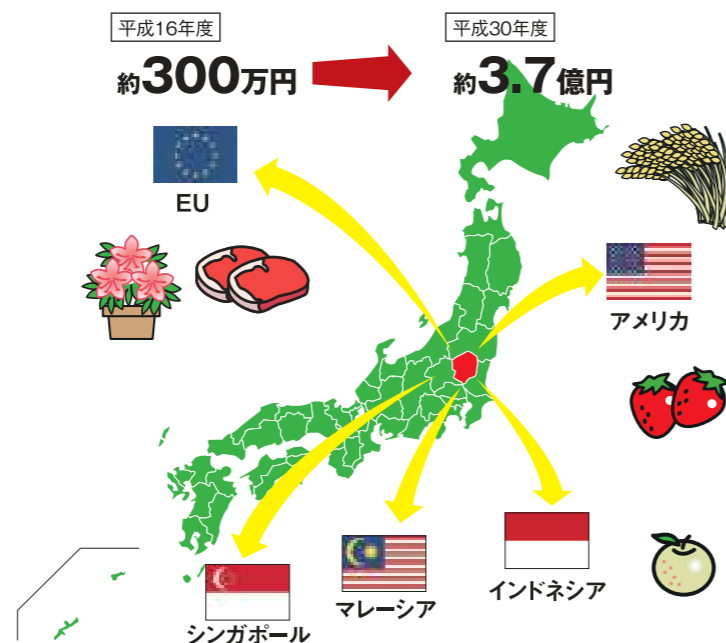
栃木県には、米やいちご、とちぎ和牛など国内外に誇れる農産物がたくさんあります。

これまで、海外での販路拡大を積極的に進めた結果、近年は5年連続で輸出額が過去最高を更新中です。目標額4億円に向け、県産農産物のPRや輸出拡大に取り組んでいきます!



知事によるトップセールス@香港

◆県産農産物輸出額



【知っていますか? 栃木がいちご王国になるまで】

- 平成初期 栃木県開発品種「女峰」や新しい栽培技術の導入によりクリスマス時期の出荷が可能に
- 平成8年 いちごの代表「とちおとめ」登場
- 平成13年 県内限定、幻のいちご「とちひめ」登場
- 平成20年 全国で唯一の「いちご研究所」開設
- 平成23年 夏に楽しめる「なつおとめ」登場
- 平成26年 贈答向けの三ツ星いちご「スカイベリー」登場
- 平成30年 1月15日を「いちご王国・栃木の日」と宣言

「いちご王国・栃木」
ヒストリー



いちご王国の大黒柱「とちおとめ」

◆いちごの産出額の推移



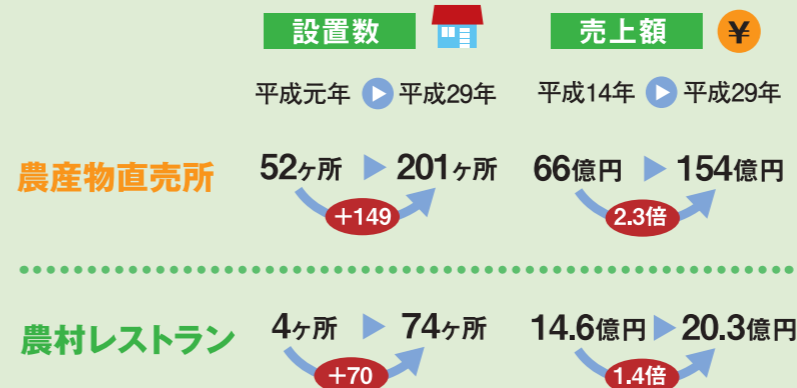
平成28年、産出額が**過去最高の285億円**、平成29年産で生産量が**50年連続の日本一**となり、名実ともに「いちご王国」となりました。

【魅力いっぱい栃木の農村】

農産物直売所や農村レストランなどの都市と農村の交流施設は、平成に入ってから設置が進み、利用者も年々増えています。

平成29年度の利用者数は、約1,950万人と過去最多となり、たくさんのお客様に支えられ、売上額も大きく伸びています。

農村の元気が、栃木を元気にしていきます!



アナタはいつ農業を始めますか？

栃木県では、毎年300人以上が新たに農業を始めます。
つまり、ほぼ毎日、誰かが農業を始めていることになります。
あなたはいつ農業を始めますか？



栃木県農業大学校
栃木の農業の次代を担う人材を育てる専修学校。「スカイベリー」や「ゆめみどり」などの新品種や、ICT等の先端技術を活用した家畜管理施設「ドリーム牛舎」で最新技術を学べます。



とちぎ農業未来塾
農業大学校で行われている就農準備研修。栃木県内で農業を始めたいと思っている人が、基礎的な農業経営の知識や作物の栽培技術などを学べます。

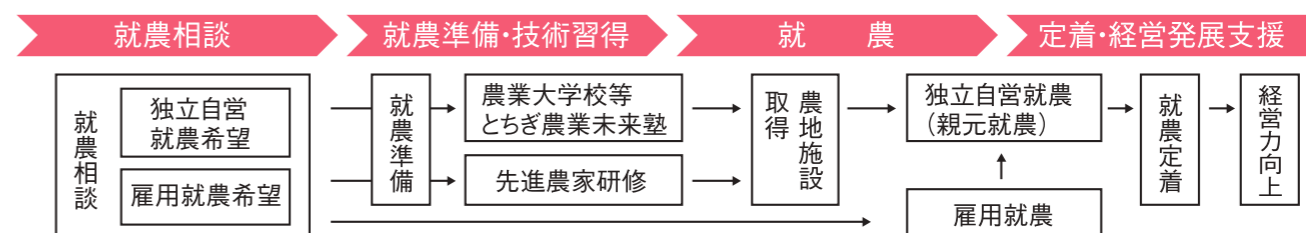
～新規就農&人材育成～



とちぎ農業ビジネススクール
「プロ」の農業経営者の育成を目指し、売上の拡大や経営コストの縮減といった農業経営を発展させる取組を学べます。



農業の魅力発信
農業者による中学生への農業の魅力発信講話や、農業高校の生徒との交流活動の推進など、未来を担う若い人材の就農意欲の向上に取り組んでいます。



キラリと光る



栃木の人材



JAしもつけ栃木トマト部会
和総農園株式会社
代表取締役社長 **物江 直人**さん

「目指すは農のイノベーション」

東京出身の物江さんが「トマト農家になりたい」と思ったのは中学生のとき。テレビで見たトマト農家のご主人の“誇りに満ちた目の輝き”に魅せられ、東京農大卒業後に養豚の大手企業で働いた後、トマト生産の師匠である松本勲さん（栃木トマト部会）の元へ。

土地も資金もないゼロからのスタートながら、とちぎ農業未来塾で学んだことを生かし就農1年目で県平均を大きく上回る収穫量を達成。4年目の今年、組織を法人化。さらに大きな夢へと向かっています。

【物江さんに聞いてみました】

人生を掛けてやりたい仕事は何だろうと真剣に考えた後、縁あって栃木で就農することができました。農業の面白さは、やり込めばやり込むほど大きな成果が得られるところ。高校で共に農業を学んだ共同経営者の野本と補い合いながら、一切妥協をせずに毎日トマ

トと向き合っています。安心安全、おいしいトマトは当たり前。今年はハウスを新設し、生産性向上を図ります。

これからの夢は、日本の農業の活性化。農は日本の財産です。夢を語って多くの人に農業の魅力を伝え、新規就農の夢を持った同志を熱く応援したいと思います。



「仲間がいるから前進できる」

20歳で跡取りとして農業に携わるようになった吉原さんが挑んだのは「鉢花づくり」。昭和53年、185坪のハウスからシクラメン栽培を始め、東京の市場には自ら2トントラックを運転して配送をしたことも。それから40年以上が経った今、吉原さんが営む「イッセイ花園」のキララベルの鉢花は、首都圏の専門店でもギフト用に指名買いをする人もいるほどの人気商品。平成21年度「全国花き品評会」において農林水産大臣賞を受賞。



シクラメン各種鉢花生産販売
MFG イッセイ花園
代表 **吉原 一成**さん

【吉原さんに聞いてみました】

高密度で茂る葉とボリュームのある花、花持ちの良さが特長のシクラメンは、出荷までに7~8回の葉組みを行います。「お客さまの信頼に応えられる美しい花を作りたい」との思いを常に胸に、栃木・茨城の花生産者で作った「MFG（ミローム・フローズ・グループ：ラテン語で

“すばらしい花の仲間たち”）」のメンバーと協力、切磋琢磨しながら「いい花づくり」に励んできました。最近では後継者も就農し、頑張っています。頼もしいのは、これまで受け入れてきた17名の研修生。彼らは花づくりの技術だけでなく人や地域との関わりなどを学び、県内外で見事な鉢花を作っています。



食と農の可能性を拓く

【農業の新たな一步 6次産業化への取組】

“6次産業化”とは…?



農業の6次産業化

イコール

農家が農作物の生産（1次産業）だけではなく、加工（2次産業）や流通・販売（3次産業）に取り組む「6次産業化」では、高付加価値化による所得向上を目指しています。

●栃木6次産業化サポートセンターのご紹介



私達が相談に乗ります

相談風景

栃木6次産業化サポートセンターでは、6次産業化に取り組む農林漁業者を支援しています！商品開発や加工、販売などの悩みを気軽に相談してください！

<連絡先>
 栃木6次産業化サポートセンター
TEL.028-648-9515
 (公財) 栃木県農業振興公社内

【フードバレーとちぎを目指して】

“フードバレーとちぎ”とは…?

栃木県は全国有数のものづくり県であるとともに、豊かな農産物や豊富で良質な水に恵まれ、首都圏の食料供給基地として発展してきました。

県では、本県のもつポテンシャルを最大限に活かし、「食」に関連する産業の振興を図ることにより『食』をテーマに地域経済が成長・発展し、活力あふれる“フードバレーとちぎ”をめざす取組を全県を挙げて推進しています。



※価格は税込みで、掲載時点のものです。

宮ゆずドレッシング各種 648円
 宮ゆず果汁 756円

宮ゆずジャム 648円
 宮ゆず調味料各種 540円
 ゆず塩 432円

床井 光雄 (とこいみつお) さん

自らの手で育てた自慢の農産物を手軽に家庭で楽しんで欲しい。そんな思いで商品を作っています。

六次郎のセミナーでは、“おいしさ”だけではなく、パッケージデザインなどの“見せ方”やレシピ提案などの“伝え方”の大切さを学びました。若い人にもどんどんセミナーに参加してもらい、「地元のいいもの」を伝える輪を大きく広げていきたいです。

宇都宮市北西部の新里地区で採れる外皮が厚く香りが高い「宮ゆず」。生産者だからこそわかる宮ゆずの特長を活かした商品開発をしています。

【商品取扱店】緑(パセオIF)、道の駅うつのみや ろまんちっく村、宮カフェ、ほか

にっこり梨シロップ 650円
 にっこり梨ドレッシング 800円
 梨ジュース豊水100% 1,000円
 にっこり梨コンフィチュール 650円

山口 美輝 (やまぐちみき) さん

東武宇都宮百貨店での販売会では生産者の思いをいかに伝えるかを考え、学びながら、毎回お客さまとの出会いを楽しんでいます。

六次郎の仲間は、作る農作物は違っても、農作物自体のクオリティを高めて、よりおいしい加工品を作りたいという思いは同じです。

今後も仲間同士で高め合い、楽しみながら、時代とともに変化する食生活に合ったさまざまな加工品を開発していきたいです。

宇都宮東部の清原地区で土づくりにとことんこだわって梨を栽培しています。化学肥料や農薬を極力控え、樹上完熟梨の提供を心掛けています。ジュースやドレッシング、万能ソース等、樹上完熟梨を使った加工品が人気です。

【商品取扱店】山口果樹園、ほか

河内のふるさとの香り漂う
 6次産業化商品を「六次郎」に込めて

「六次郎」は、河内農業振興事務所が開催する「河内6次産業化商品販促実践セミナー」で開発した「河内ふるさとお土産セット」から生まれた商品のブランド名。セミナーには、河内地域（宇都宮市・上三川町）で「6次産業化」に積極的に取り組む農業者が参加し、現在はギフトを含む30品以上が「六次郎」の商品として販売されています。

商品開発等は、6次産業化実践アドバイザーの(株)ファーマーズ・フォレストの松本謙社長、文星芸術大学の細田秀明准教授、(株)東武宇都宮百貨店山野井明夫氏など経験豊富な講師陣からアドバイスを頂いています。

農業者の新たな連携から生まれた「六次郎」は、河内地域から発信するふるさとの香り漂う素敵なお土産やギフトとして、着実に人気が出てきています。

百貨店で「六次郎販売会」を継続開催

「消費者の方からの生の声を聞けるチャンス」と、セミナー参加者たちにも好評なのが、東武宇都宮百貨店B1Fのふるさとギフト前特設会場で開催する「六次郎販売会」。平成30年2月より年3回、継続的に開催し、毎回、商品開発にあたった農業者が売り場に立って試食を提供し、「六次郎」商品の魅力を直接お客様にPRしています。

多様な消費者が集まる中核市の立地を生かした河内ならではの取組です。

【次回開催】令和元年11月（予定）



季節を楽しむ!

とちぎの農村めぐり

2019

詳しくは
QRコードを
CHECK!

「とちぎの農村めぐりインスタグラム」

SNS

7/13~9/16

インスタ投稿キャンペーン

「#とちぎの農村めぐり #〈スポット名〉」で
スタンプラリー(サマーステージ)の
ラリースポット写真を投稿!
プレゼントをゲットしよう!



インスタグラムで
タイムリーな
情報をお届け!



デジタル スタンプラリー

「農村わくわくスマホラリー」

3つのスポットをめぐって豪華賞品をもらっちゃおう!

のぼりが
目印!



第1弾

サマー
ステージ

7/13▶9/16

第2弾

オータム
ステージ

9/21▶11/17

第3弾

ウインター
ステージ

12/7▶2/11



スマホでその場から
簡単に参加できます!



ラリースポットは各ステージ約50か所。
季節ごとの特徴あるスポットにはわくわくがいっぱい!

すべてのステージをクリアすると、
さらに賞品ゲットのチャンス!



「季節を楽しむ」とちぎの農村めぐり特集

ホームページ

農村地域ならではの楽しいイベントや
体験スポットなど、旬の情報を掲載



パソコンや
スマホから
アクセス!



ビュー
ポイント



農業
体験

イベント
情報



今まで
知らなかった
とちぎの魅力を
新発見!

※企画内容は変更になる場合があります。※写真はイメージです。

お問い合わせ | 栃木県農政部農村振興課 | 栃木県宇都宮市埴田1-1-20 TEL.028-623-2333

栃木県農業の魅力伝える情報誌「TOWANO」

TOWANO

とちぎ わくわく のうぎょう

発行 栃木県農政部農政課
住所 〒320-8501 宇都宮市埴田1-1-20 県庁舎本館12階
電話 028-623-2284
ファックス番号:028-623-2340
Email:nousei@pref.tochigi.lg.jp
発行月 2019年7月



※本誌についてのお問い合わせは
栃木県農政部農政課
電話 028-623-2284